



2000万署名で戦争法廃止へ

私の一言

戦争法の廃止を求める統一署名は様々な組織で実施されています。診療所として参加している「善通寺民商」でも、2000万署名をやりきろう！の号令のもと、署名活動を行っています。全国的な、かつてない規模の運動に対して、安倍政権は強気な態度を崩していません。なぜこれほど民意を無視できるのか。自民党・安倍政権の思想・人格云々以前に、我々は政治から軽視されていると思います。

政治は子育て世代も軽視しています。大きな理由の一つに投票率の差があります。60代・70代の投票率は20代・30代の1.5倍です。しかしもう一つ、大きな要因があります。それは「当事者であり続け

る期間が短いこと」です。「保育園落ちた日本死ね」の話もそうですが、保育園に入れたらそこで当事者ではなくなってしまいます。「喉元過ぎれば…」ではないですが、今頑張れば何とかなる、として継続的な運動になりにくいのだと思います。

社会運動には継続的に、粘り強くということが非常に重要です。今盛り上がっている2000万署名運動も喉元過ぎれば…と安倍政権の狙い通りにならないようにしなければなりません。我々が当事者であり続ける事、当事者でなくても共感し、運動し続けていくことが重要だと思います。

(善通寺診療所 宮西剛司)

戦後生まれの私たちは、戦争のことについて語れと言われても、語るものはありません。頭の中にあることは、祖父の家には、仏壇のある部屋の壁の上段に軍服を着た写真が掲げられていて、何処の家でも、同じような仏壇の間には軍服を着た写真が掲げられていました。親も祖父母もあまり語ろうとしない、子供心にも聞くことをしない。そのような環境がありました。

私の親は、昭和4年と昭和8年生まれですから、その頃は、「産めや増やせや」の時代ですから兄弟はそれぞれ、7人・9人といいます。

ただ、私の伯母は被爆者で、今も健在です。被爆

した当時のことも聞いたことがありません。私は広島県の蒲刈島で生まれ、今は本州と橋でつながっていますが、当時は島から働きに出ていた人は小さな船を利用していました。広島市に出ていた人が島にいる被爆者です。私の祖父が島の被爆者の世話をしていました。

私の世代は、親の環境から戦争の足跡など感じ取ることがありましたが、今の若い人は未来を感じ取るしかありません。いつまでも戦後が続くことを望み、戦争法を廃止できるよう努めていきます。

(生協へいわ歯科 永尾力夫)

中四地協 15年度社保・平和活動交流集会が行われました！

2月19日～20日に島根の松江で開催された「2015年度中四地協社保平和活動交流集会」へ香川からは3名で参加をしてきました。今年度は中四国地方の9県より44名が集まりました。

1日目は、学習講演と各県連活動報告がされました。学習講演は島根大学法経学科教授の上園昌武氏から「原発ゼロ社会の実現に向けて」という題で、日本が考えている将来のエネルギー需給の見通し、島根原発について、ドイツのエネルギー計画などお話して頂きました。各県連活動報告では広島「平和ゼミ第4期」、島根「平和ゼミ第2期」、香川「無低診薬剤補助」、高知「高知民医連者社保活動紹介」、愛媛「社会保障拡充キャラバン」、徳島「徳島県の社保平和活動」、岡山「一職場一事例報告のまとめ「命のおもみ」発行の取り組み」、山口「米軍岩国基地をめぐる山口民医連の取り組み」という題で各県から報告がされました。

2日目は、島根原子力館で原子力発電と島根原発についての説明、展示の見学、バスに乗り島根原発の見学を行いました。松江の中心部からバスで20分ほど

の位置に島根原発があり、事故が起きた際の危険度を実感することが出来ました。見学にあたって身分証明書を使っての本人確認が二度行われ、原子力館の方から撮影録画は厳禁と何度も説明がありました。「テロ対策のため」「国際基準で」と説明がありましたが、そこまでしなければいけないほど危ないものが、市街地から20分の距離にあることに驚きました。2日間を通して各県ごとに特色のある取り組みを知り、島根原発について学ぶ、良い機会となりました。

(高松平和病院医事課 大西千夏)

